



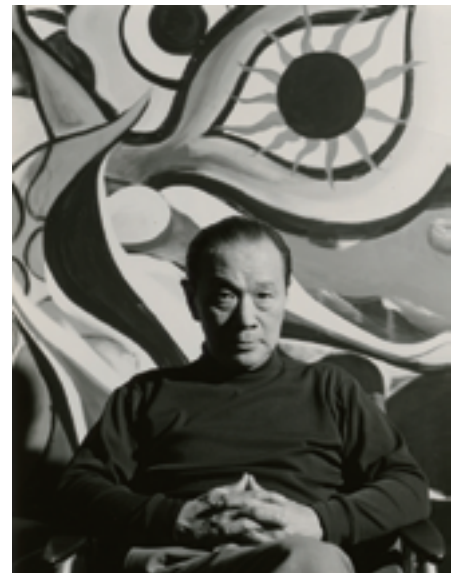
美術評論家連盟主催・シンポジウム2011
岡本太郎と美術批評

2011年11月27日〔日〕
13時―16時50分（12時45分開場）

東京国立近代美術館 地下1階講堂

〒102-8332 東京都千代田区北の丸公園3
地下鉄東西線竹橋駅1b出口徒歩3分

申込制・先着150名まで 入場無料



岡本太郎と美術批評

美術評論家連盟主催・シンポジウム2011

美術評論家連盟は、結成50周年に当たる2004年から毎年、総会の開かれる秋に、そのときどきの美術界の関心事に焦点を当てて公開シンポジウムを開催してきました。

今回のシンポジウムは、「岡本太郎と美術批評」をテーマに掲げました。

近年ますます多方面で関心の高まりを見せている芸術家・岡本太郎の活動を、日本の美術批評界がどのように評価してきたか、また、今後どのような視座の中で評価してゆくべきかを、2部構成で多角的に議論し、新しい観点も踏まえて、問題点を明らかにしたいと願っています。

おりしも、今年は当連盟会員で長らく美術批評界をリードしてきた中原佑介、瀬木慎一が、昨年の針生一郎について世を去り、戦後美術批評に一つの区切りをもたらした観があります。岡本太郎がどう評価されるべきかは、日本の美術の過去はもとより、現在と将来を考える上で、一つの指標となるにちがいません。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。

【第1部】「美術批評と岡本太郎」13:10-14:30

パネリスト | 倉林靖(会員)、光田由里(会員、渋谷区立松涛美術館)、村田慶之輔(会員、川崎市岡本太郎美術館)

倉林 靖[くらばやし やすし]

1960年群馬県生まれ。武蔵野美術大学・東京造形大学・京都造形芸術大学・専門学校桑沢デザイン研究所ほか非常勤講師。

最近の著書・論文、「岡本太郎と横尾忠則[新版]」(ブクエント刊)、「震災とアート①—アートに何が可能か」(『Bio City(ビオシティ)』第48号[ブクエント刊]所収)

村田慶之輔[むらた けいのすけ]

1930年神奈川県生まれ。文化庁芸術課、国立国際美術館等を経て、現在、川崎市岡本太郎美術館館長。企画した主な展覧会に「荒川修作の世界・意味のメカニズム」(1979)、「今井俊満展」(1989)、「東山魁夷展」(1982)、「芸術と科学の婚姻 虚舟—私たちは、何処から来て、何処へ行くのか」展(2011)。

光田由里[みつだ ゆり]

西宮市生まれ。近現代美術史・写真史。

著書に「高松次郎 言葉ともの—日本の現代美術1961-72」(水声社2011)、『写真、芸術との界面に 写真史 一九一〇年代—七〇年代』(青弓社2006)、本写真協会学会賞、『美術批評』誌とその時代』(Fuji Xerox Art Bulletin 2006)、『野島康三写真集』(赤々舎2009)ほか。カタログに『岡本信治郎 空襲25時』2011年、『中西夏之 絵画の鎖・光の森』2008年、『大辻清司の写真 出会いとコラボレーション』(フィルムアート社2006)ほか。



瀧口修造(1903-1979)
[写真提供:富山県立近代美術館]



針生一郎(1925-2010)
[写真提供:根本千穂]



瀬木慎一(1931-2011)
[写真提供:総合美術研究所]



中原佑介(1931-2011)

【第2部】「岡本太郎の思想と作品」14:40-16:50

パネリスト | 磯崎新(建築家)、岡崎乾二郎(会員、美術家)、北澤憲昭(会員、女子美術大学)、佐々木秀憲(川崎市岡本太郎美術館)

【第1部・第2部】総合司会 | 峯村敏明(会員)

磯崎 新[いそざき あらた]

1931年 大分生まれ。1963年磯崎新アトリエ設立。代表的な建築作品に「大分県立中央図書館」(現アトプラザ)、「群馬県立近代美術館」,「ロサンゼルス現代美術館」,「なら100年会館」,「秋吉台国際芸術村」,「上海ヒマラヤ・センター」,「カタール国立コンベンションセンター」など。

北澤憲昭[きたざわ のりあき]

1951年 東京生まれ。美術評論家、美術史家。女子美術大学教授。主著、『眼の神殿—「美術」受容史ノート』(美術出版社、1989/ブリュッケ、2010)、『岸田劉生と大正アヴァンギャルド』(岩波書店、1993)、『境界の美術史』(ブリュッケ、2000)、『「日本画」の転位』(ブリュッケ、2003/2011)、『アヴァンギャルド以後の工芸』(美学出版、2003)。

峯村敏明[みねむら としあき]

1936年 長野県生まれ。1960年 東京大学文学部仏文科卒業。1960-1971年 毎日新聞社勤務。1979-2006年 多摩美術大学勤務。

1967年頃から美術批評の活動を始め、多くの近代・現代美術に関する論文執筆ほか、展覧会の企画、国際美術展の審査・運営、テレビ番組の構成等を手掛ける。現在、美術評論家連盟会員、多摩美術大学名誉教授、同大学附属美術館館長。著書、『モノ派』(鎌倉画廊)、『平行芸術展の80年代』(美術出版社)、『彫刻の呼び声』(水声社)ほか

岡崎乾二郎[おかざき けんじろう]

1982年パリ・ビエンナーレ、以降インド国際トリエンナーレなどの国際展に出品、2002年セゾン 現代美術館、2009-10年東京都現代美術館にて個展を開催。『ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展』では日本館ディレクターとして参加。主な著書に『ルネサンス 経験の条件』、『芸術の設計』(共著)など。近畿大学国際人文科学研究所教授。

佐々木秀憲[ささき ひでのり]

1961年 佐賀県(佐賀市)生まれ。1986年 慶應義塾大学哲学科美学美術史学専攻、卒業。1989年 同大学大学院文学研究科哲学専攻、前期博士課程修了(文学修士)。2004年 川崎市岡本太郎美術館学芸員となり、現在に至る。所属学会:日本宗教学会、美学会、人体科学会。

【主催】美術評論家連盟

【企画】美術評論家連盟シンポジウム実行委員会
(天野一夫、福永治、藤嶋俊會、峯村敏明)

【ご案内】

シンポジウム終了後、懇親会を開催いたします。
一般のご来場の方の参加もお待ちしております。(場所=未定、会費=未定)

【お申し込み方法】

お名前、ご住所、電話番号を明記して、メールまたはファックスにてお申し込みください。件名に「シンポジウム2011申し込み」と必ず明記してください。定員(150名)になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。
メールには必ず返信を致しますので、何かのトラブルで事務局からの返信が確認されない場合は、ご面倒でも連絡を頂けたらと思います。

【申込み・問合せ先】美術評論家連盟事務局 小林季記子

メール | aica.jp@dream.com ファックス | 03-3626-7528(8:00~20:00受付)

URL | <http://www.aicajapan.com/>



東京国立近代美術館 地下1階 講堂

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 <http://www.momat.go.jp>
東京外口東西線 竹橋駅1b出口 徒歩3分

表面

【1段目】
岡本太郎『明日の神話』1968
川崎市岡本太郎美術館所蔵

【2段目】
岡本太郎『太陽の塔』1970
「所在地:大阪万博記念公園」

【3段目】
右:1970年代の岡本太郎
中:岡本太郎撮影『縄文土器』1956
山梨県出土
東京大学人類学教室所蔵
左:岡本太郎『午後の日』1967
川崎市岡本太郎美術館所蔵

以上写真提供:川崎市岡本太郎美術館
【4段目】
尾形光琳『燕子花図』
根津美術館蔵
写真提供:根津美術館